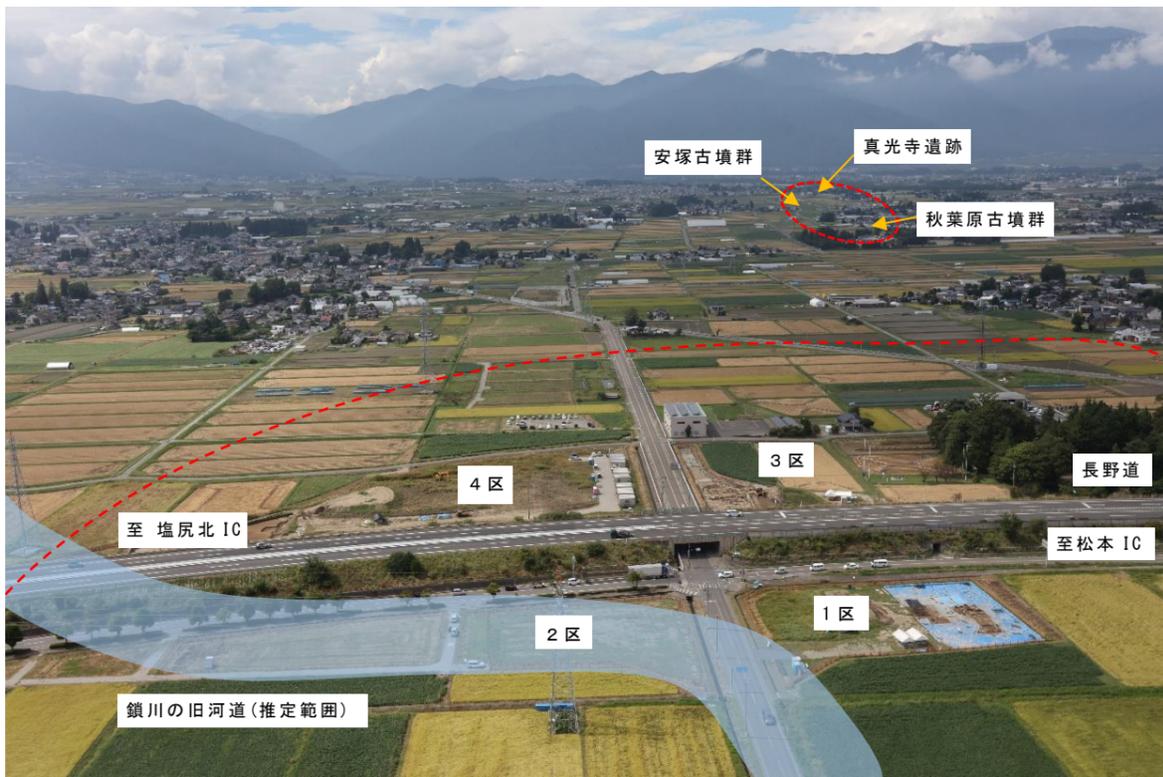


令和6年度 中部縦貫自動車道と中央自動車道長野線を連結する
松本JCTの建設事業に伴う発掘調査

みなみくりいせき 南栗遺跡 現地説明会 資料

令和6(2024)年10月5日(土)
(一財)長野県文化振興事業団 長野県埋蔵文化財センター



南栗遺跡遠景(令和6年9月 東から) ※赤い点線の内側は遺跡範囲を示す

1 令和6年度 調査の概要

所在地: 松本市島立 5011 ほか

調査期間: 令和6年5月7日~12月20日(予定)

調査面積: 9,600 m²

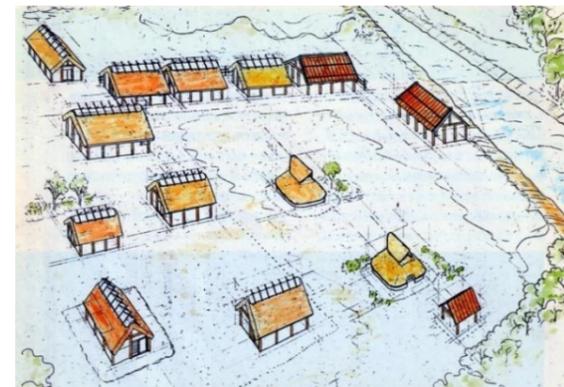
今年の調査で発見した主なもの:

遺構	たてあな たても のあと 堅穴建物跡78軒	ほったてばしら たても のあと 掘立柱建物跡5棟	みぞあと 溝跡3条
遺物	はじき すえき 土師器、須恵器	かいゆうとうき りよくゆうとうき 灰釉陶器、緑釉陶器	
	とうす おびきがね せんか 金属製品(刀子、苧引鉄、銭貨)		
	ふいご はぐち といし てつさい 鞆の羽口、砥石、鉄滓、馬の歯		

2 南栗遺跡の概要

南栗遺跡は鎖川左岸の自然堤防背後の緩斜面に立地し、遺跡の範囲は南北0.7km、東西1.2kmに広がります。長野自動車道の建設に伴い1985・1986年に実施した発掘調査では、堅穴建物321軒、掘立柱建物跡104棟を確認し、松本地区における古墳時代後期から平安時代にかけての最大級の集落遺跡と考えられます。また奈良時代には掘立柱建物跡が「コ」の字状にと並ぶ範囲も確認されており、律令制度が地方に浸透してきた可能性も考えられます。

昭和以降の調査で、集落から2~3km程西方に位置する安塚古墳群、秋葉原古墳群、真光寺古墳で古墳時代後期から奈良時代初頭の古墳が複数存在することが判明しました。南栗遺跡成立期の集落と関連する墓域かもしれません。



長野道調査地点 掘立柱建物群

長野県埋文1991 『いま信濃の歴史はよみがえる』



1区 1004号掘立柱建物跡(白線の範囲)

3 今年度の調査成果(裏面図参照)

今年度の調査では、北東部の地区(1区)では堅穴建物跡が14軒確認されました。その中で古墳時代後期の堅穴建物跡が確認されたことは、本集落の成立期の様相を探る上で大変重要です。南東部の地区(2区)では明確な遺構は検出されませんでした。航空写真を分析したところ、鎖川に関連する可能性のある旧流路の痕跡が確認でき、居住に適さなかった可能性が分かってきました。北西部の地区(3区)では堅穴建物跡が重なり合った状態で63軒も確認されました。この地区は他の地区よりも標高が高く、人々が水害の少ない微高地に長期間にわたり生活を営んでいた可能性が考えられます。南の地区(4区)では令和4年度~今年度までに堅穴建物跡が51軒確認されましたが、南方に向かうほど建物の数が減ることが判明し、集落の南端になると思われます。

長野県埋蔵文化財センター
〒388-8007 長野市篠ノ井布施高田 963-4 TEL: 026-293-5926
MAIL: maibun@naganobunka.or.jp HP: <https://naganomaibun.or.jp>
担当: 廣田/関/丸山/小出/鈴木
支援業務(株)シン技術コンサル: 松田/安生/福嶋
(株)島田組: 西尾/高見澤/國分

※ 現地説明会の様子をウェブ等で公開しますので、ご承知ください。

3区遺構配置図 (島田組)

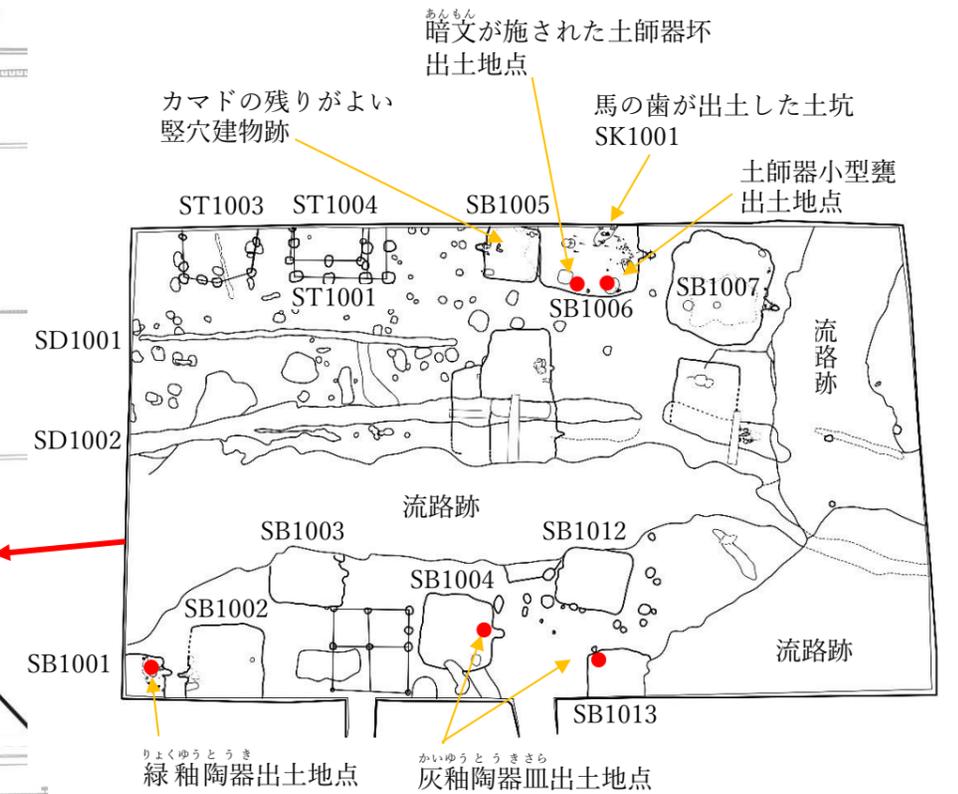


3036号住のカマド (3区)



53号住から出土した砥石 (平安時代)

1区遺構配置図 (シン技術コンサル)



1006号住の完掘状況 (1区)



1001号土坑から出土した馬の歯 (1区)